

# 桂スチールが設備増強

## 来年1月 プラズマ切断機導入

桂スチール(本社兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は来年、主力の各工場で設備増強を実施する。1月に切板の生産効率向上を目的とし、友延工場(岡山県備前市)、玉野工場(岡山県玉野市)にプラズマ切断機(コマツ産機製)を1基ずつ導入。2月には友延工場に溶接ロボット2基を新設する。1基は仕口ロボット、1基は梁用ロボットで、溶接の省人化・省力化が狙い。今後も、老朽化対策や自動化の設備投資を順次進める。

## 2月に溶接ロボット2基

同社は生産拠点とし、工場、岡山第5工場、玉野工場、姫路工場、友延工場を有し、建築鉄骨

・BT(ベルトT形鋼)の製作と二次加工の製作と、建築鉄骨などを手掛けている。特に大型・長尺・異形物のBHの製作が得意。

今年度は景気後退やコロナ感染拡大もあって、建築鉄骨が中低層物件を中心に落ち込んでおり、主力のBH製作も夏場以降、下降傾向にあった。これに対応し、外国人技術研修生の抑制や諸コストの削減を行う一方で、加工・製作の省力化を検討。来年1、2月に切板と溶接関連の設備投

資を行う。1月に友延工場と玉野工場にコマツ産機製のプラズマ切断機(ツイスター加工機)を1基ずつ導入する。同設備は切断速度が4メートル/秒以上で、作業員が簡単に操作できることが最大の特徴。同設備を活用し、建築向け切板の生産性を引き上げる。2月には友延工場に仕口ロボット1基と梁用ロボット1基を新設する。これまで溶接ロボットは岡山第3工場に6基有しており、今回の導入により、全社の溶接ロボットは8基体制となる。導入後は溶接作業の省人化・省力化に寄与させる。